

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	木村 穂乃香
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 実践共同体における読むことの学習評価に関する研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	山元 隆春	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	間瀬 茂夫	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	難波 博孝	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	柳澤 浩哉	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、国語科における「読むこと」の学習評価に関する課題を解決するために、他者との関わりの中で読みを広げ深める自立的な読み手の育成のために、実践共同体の形成を軸とした読むことの学習評価方法を探究することを目的としたものである。この目的を果たすために、①読むことの学習において実践共同体を単位とした評価を行う意義は何か、②読むことの学習における実践共同体の実態と構成要素は何か、③読むことの学習における実践共同体を単位とした評価の方法として、教師と学習者は学習者の学習状況をどのように追究・解釈できるのか、④そのような評価の方法が、学習者の読みや読む行為にどのような広がり・深まりをもたらすのか、という四つの研究上の問いを設けた。</p> <p>本論文の構成は、次の通りである。</p> <p>序章では、研究の目的と方法を述べた。</p> <p>第1章では、読むことの学習評価に関する研究のこれまでの成果と課題を論じた上で、読むことの学習を「社会的行為」として捉える学習指導の在り方を論じ、「目標に準拠した評価」と「学習としての評価」のそれぞれの角度から検討して、読むことの学習評価の課題を析出した。</p> <p>第2章では、先行研究をてがかりにして読むことの学習評価における「対話とフィードバック」の重要性を述べた上で、従来の読むことの学習評価研究における「対話」「フィードバック」の在り方を検討し、「実践共同体を単位とした評価」の必要性を論じた。</p> <p>第3章では、第2章を踏まえて「実践共同体を単位とした評価」の教育的意義を論じ（第1節）、その上で、「実践共同体を単位とした評価」の課題を指摘し（第2節）、具体的な実践例として大村はまの「読書会」実践を取り上げ、その内実を分析しながら、大村はまの「読書会」実践がどのようなかたちで「実践共同体」での実践たり得ていたかを考察した。これを踏まえて読むことの学習における「実践共同体」の構成要素を明らかにし、「実践共同体を単位とした評価」のモデルを描いた（第3節）。</p>			

第4章では、実際に日本の学校現場で取り組まれた「土曜放課後の会」での読書実践とその学習評価のありようを、アンケート調査、インタビュー調査、実践データの分析・考察を通して明らかにした。得られたデータをもとにしながら、「土曜放課後の会」における学習評価とフィードバックの実際とその分析をもとにして、読むことの学習における「実践共同体を単位とした評価」に関する提言を行っている。

終章では、研究の総括と展望が為された。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 従来、学習者個人を単位として為されてきた読むことの学習評価の在り方の問題点を克服するために「共同体を単位とした学習評価」というまったく新しい学習評価の在り方を、理論的・実証的に提案したこと。
2. 先行研究を手がかりとしながら、「実践共同体」の構成要素を明らかにし、「共同体を単位とした学習評価」のモデルを描き、実際に日本の学校での実践をもとにして「共同体を単位とした学習評価」の内実を明らかにしたこと。
3. 「共同体を単位とした学習評価」が読むことの学習の進展にどのような貢献を果たすかということをも具体的に提言しえたこと。とくに、「共同体を単位とした学習評価」を行うことによって社会情動的な能力を形成する学習(social emotional learning)が果たされうることを明らかにしたことは、国語科の「読むこと」だけに止まらないきわめて重要な発見事項である。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6年 2月 7日

備考 要旨は、A4版2枚(1,500字程度)以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)